



これからの 情報処理学会

— 第 22 回 —

そこに情報処理学会

勝山光太郎

(独) 科学技術振興機構研究開発戦略センター
情報処理学会総務理事

昨年5月の情報処理学会の総会で承認いただき、情報処理学会の理事となった。総務担当理事および電子化担当兼務である。これまで、「これからの情報処理学会」の中で、各役員の方が、いろいろな観点で話を展開しているので、電子化担当理事の立場で、情報処理学会の電子化の状況を述べる。そして最後に、ある日ふと考えた情報処理学会の理想の状況(夢)について述べることとする。

学会の電子化状況

過去からどういう経緯でこうなったかはさておき、学会の電子化の現在の状況を見てみよう(大変なご苦労によりシステムが構築されてきているようだ)。学会のシステム全体構成を図-1に示す。

中核は、会員管理を行うデータベースシステムである学会マネジメントシステムになる。皆様がアクセスしているWebページなどを提供しているのがWebシステムである。各種イベントの案内、イベントの参加/発表申込、コンピュータ博物館、メールサービスなどがある。昨年から実施している役員選挙の電子投票システムもここに構築されている。

論文の査読を支援する論文査読管理システム(PRMS: Paper Review Management System)は、今年3月からサービスを開始しており、すでに論文投稿、査読などで利用された方もいることだろう。研究会、シンポジウムなどの論文をpdfで受付可能とするシステムは、開発中である。

電子図書館システムや、全国大会発表受付システムは、外部業者に委託している。会計処理は、市販のパッケージソフトである。

現在、会員認証/プロフィールシステムの開発を実施している。これにより、会員によるプロフィール(個人の住所、電話番号などの情報)の変更がオンラインで可能となる。プロフィール変更画面のイメージを図-2に示す。

プロフィール変更のために、会員にはIDが割り振られ、パスワードを登録してもらう。将来的には、このIDとパスワードで会員認証を行い、統一的に各種サービスが受けられるようにする布石でもある。

情報システム開発の縮図

この会員認証/プロフィールシステムの開発では、情報システムの発注側の一員という貴重な体験をすること

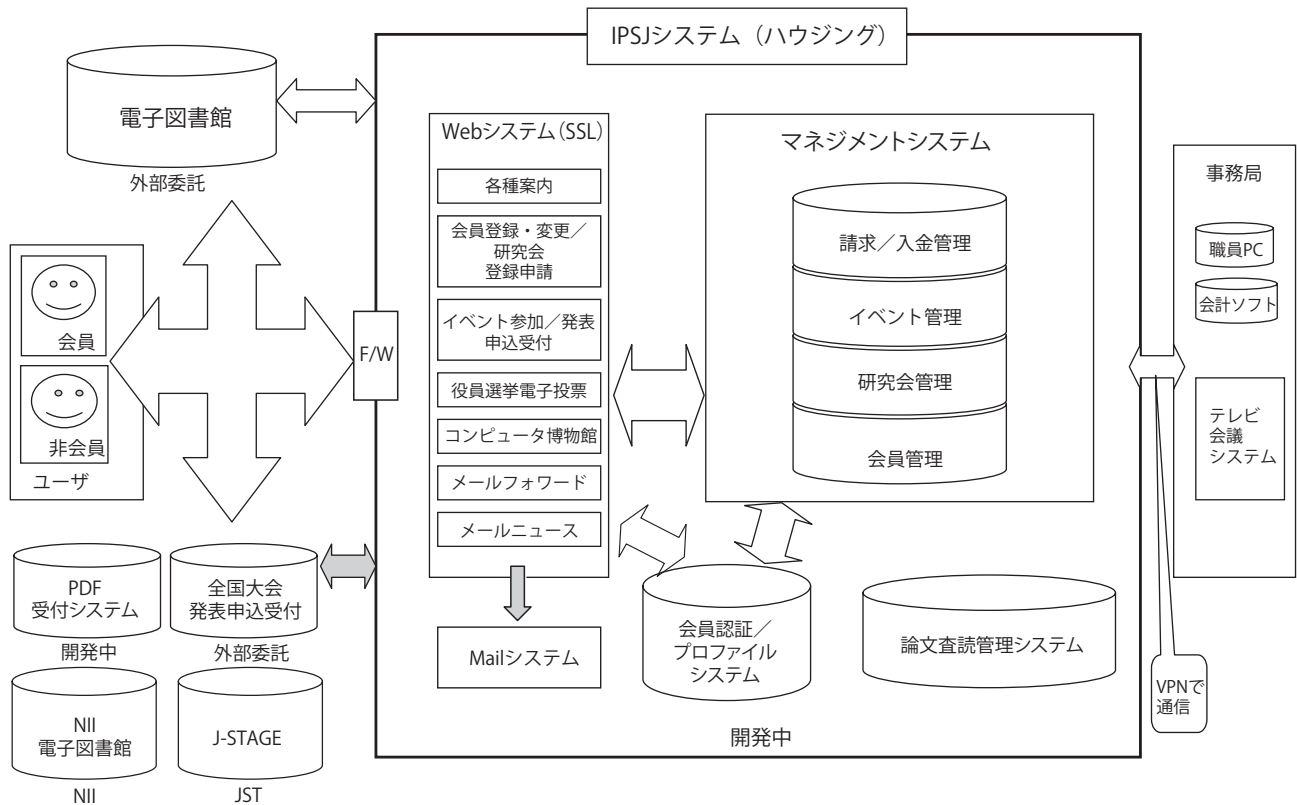


図-1 情報処理学会システム構成図

ができた。普段は、どちらかというシステムを作る側のため、やはりユーザの立場にたてばこう思うであろうという点が少なからずあった。たとえば、見積もりが高い、こんな簡単なことがなぜ難しいのか？ などなど。

こうした情報システムは、保守や維持管理にコストがかかるために、なるべくならばアウトソーシングを基本としたいところだ。しかしながら、いわゆるかゆいところに手がとどくカスタマイズが難しいために、自前のシステムが欲しくなるという状況になっている。

自前のシステムは、こちらの要望に従って改修ができるところが最大の利点であるが、どうしても、最初に開発を依頼したところに、改修を頼むことになる。最初のものがうまく作られており、ドキュメントなどもきちんとしていれば、改修は違う業者でもよいかもかもしれないが、なかなかそうもいかない。また、現在の業務を忠実に電子化しようとするあまり、オーバースペックに陥り開発コストがかさむことにもなりかねない。業務の単純化、効率化をした上で電子化すればそれほどコストはかからないはずなのだが、日本のITの現場の縮図かもしれない。

SaaS はいかが

最近 SaaS (Software as a Service) が、注目を集めている。Wikipedia での SaaS の定義は次のようなものである。

Software as a Service (SaaS) とはソフトウェアをサービスとして提供するソフトウェア販売の新しいかたちである。具体的には、従来の「ライセンス」というかたちでパッケージソフトを販売し収入を得るのではなく、ソフトウェア機能をインターネットを通じて「サービス」として提供し、月額使用料というようなかたちで収入を得る事業モデルである。

素人的には、学会事務はどの学会でもほとんど同じであろうと思う。学会事務をサポートする SaaS があれば、いくつかの学会でうまく利用したいところである。

いくつかの学会が利用できる、学会サポートサービスの SaaS を格安で提供できる場所はないのだろうか。あるいは大学発ベンチャー的に、サービス提供しながら、新しい試みを実験できる場を学会として提供できるような、うまい仕組みはできないものだろうか？ そこから Google のような企業が生まれてくればいいと思うの

だが、

学会 SNS という試みも一部試験的に実施しているが、今ひとつ盛り上がらない。情報処理学会なのにと思いつつ、自分の取り組み具合から見ると、もう一代変わらないと駄目なのかもしれない。IT の総本山である情報処理学会が、スマートに IT 化できないところが、なんとも不思議なのだが、これが現実かも。

ある日ふと考えた情報処理学会理想の状況(夢)

IT 技術者(含む研究者)の社会的地位向上、社会を支えているという責任と自負、非常に困難で重要な仕事をしているという尊敬とそれに見合う収入、学生も IT 関連学部・学科に殺到、IT 技術者をめざす。IT 技術者は、情報処理学会に入っているものだ。そして日々研鑽しているはずだ。学会では、研究会などでさまざまな人と交流し、自分のアイデアがさらに高められていく。相互インタラクションにより新しいアイデアが生まれてくる。最新の技術動向が手に入る。やっぱり、学会に参加するといふことあるよねー。学会入ってないと、仕事できないのよー。というわけで、そこに情報処理学会。

さらに会員が増えてきた。情報処理学会が情報分野の学会の要として活動しつつ、学会インフラサービスの提供、さらには自社ビルによる会議室などのファシリティサービスを提供してはどうだろうか。学会のサロンをその中につくることによって、シニアな方々に気軽に立ち寄っていただき、若手の相談窓口をやっていただいてはどうか。さらに情報教育のボランティア拠点というのが理想なのだが、

(平成 19 年 8 月 7 日受付)

勝山光太郎 (正会員)
k2katsuy@jst.go.jp

1976 年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業、同年三菱電機(株)入社、通信ソフトウェア、分散処理システム、情報セキュリティの研究開発に従事。2007 年 4 月より(独)科学技術振興機構研究開発戦略センターシニアフェロー。

IPSJ 情報処理学会

IPSJ マイページ

登録情報の表示・変更

変更する箇所を修正した後、「確認する」ボタンを押してください。
半角カタカナは使用できません。※必須項目です。

確認する

▼ 基本情報

会員番号	200699999
会員種別	学生会員
会員氏名 漢字	情報 太郎
会員氏名 カナ	ジョウホウ タロウ
会員氏名 ローマ字	JOUHOU TAROU
生年月日	1970/04/30
性別	男性
入会年月日	2006/01/20
支店名	本部
現在の状況	在会 - 発送
会費納入状況	2006 納入済 2005 未納または不足あり
送付先	自宅
一括グループ	6ケタ半角数字。この項目に入力した場合、勤務先は必須です 123456
海外敬称	「様」を指定する場合は住所1、住所2、国名は漢字入力してください 送付先住所が海外の場合のみ有効 Mr.
海外発送方法	「Sea Mail」を指定すると別途費用が発生します 送付先住所が海外の場合のみ有効 Sea Mail

▼ 自宅

郵便番号	半角(例: 100-0012)
国内のみ入力	100-0012

全角50文字または半角100文字まで(例: 東京都千代田区雑司が谷1-5-1)

▼ 博士号

博士号名称	取得年
工学	2005

▼ 専門分野

専門分野	主要
0604:Webデータベース	〇
0605:データマイニング・データウェアハウス	〇
0606:コンテンツ処理	〇

▼ 購読誌

購読誌名	状況	購読開始年月
会誌	発送	1999/04
論文誌	発送	2000/04

▼ 研究会登録

略称	研究会名称	状況	登録開始年月日
DBS	データベースシステム	発送	1999/4
PRO	プログラミング	発送	2001/4
EMB	組込システム	滞納停止	2006/12

▼ 会費等の請求方法

請求する項目	請求書スタイル	前納/後納の指定	領収書
会費+論文誌	口座振替	前納	要
研究会登録費	請求書のみ	後納	不要

確認する

メニューへ

図-2 プロファイルシステムのサンプル画面